

大創産業の物流業務受託

マレーシアを拠点に展開

タイセーエブリー二十四(田中孝昌社長、愛知県一宮市)は1日、マレーシアの合弁会社PKTエブリー24ロジスティクスが、大創産業(矢野靖一社長、広島県東広島市)の海外向け物流業務を受託する契

約を締結した、と発表した。マレーシアを拠点として東南アジア向け物流サービスを展開していくほか、2021年の竣工を目指し、専用大型物流センターの建設を進める予定だ。

(梅本誠治)



21年 専用大型センター竣工

ダイセーエブリー二十四

5月から、大創産業が運営するダイソの海外物流拠点として、マレーシア最大の貿易港ポートクランからマレーシア国内と、東南アジア数カ国に向けた物流サービスを展開していく計画。当初は月3千万円程度の取引額を見込む。

21年には、マレーシア・セランゴール州に、世界15カ国以上に商品を供給する延べ床面積6万6千平方メートルの専用大型物流センターの竣工を予定しており、投資額は約70億円。

PKTエブリー24は16年2月、ダイセーエブリー二

十四とマレーシアの大手物流総合企業PKTロジスティクスグループが、日本企業を中心とした幅広い物流サービスの提供を目的に設立。

18年9月期の売上高は2億円だが、21年竣工予定の専用センターが本稼働すれば、東南アジアから中東地域に向けた倉庫運営、通関業務、コンテナ輸送などの物流サービス全般を請け負うことで、売上高は40億円程度を見込める。

大創産業が運営するダイソは現在、世界で5070店以上を展開。日本、中

国、タイで17の流通センターを運営している。マレーシアには08年6月に店舗を初出店しており、矢野社長が「PKTエブリー24が、成長著しい東南アジアと中東地域の販売店や顧客にとって、より良いサービスを提供する貴重な物流パートナーになることを確信している」とコメント。

PKTエブリー24の役員を兼任するタイセーエブリー二十四の田中社長は「大創産業にとって、海外事業戦略の中で重要な役割を担

う物流拠点の運営を担当させてもらえることを誇りに思う。同社の企業価値と信頼性に直結することを自覚し、使命感を持って物流業務の効率化を遂行していきたい」と述べた。